

2022年7月15日

The Emerging Markets Weekly

米大幅利上げへの警戒感が再び広がる

新興国市場: 前週末 8 日、アジア時間の新興国通貨は、前日のリスク心理改善を受けて朝方高く始まるも、米 6 月雇用統計の発表を控えて徐々に上昇幅を縮小した。欧米時間の新興国通貨はまちまち。EUR が 2002 年 12 月以来の安値まで一時下げられるも、その後は持ち直し。米雇用統計の上振れに米金利が上昇、米株も当初下げたが取引時間終盤にかけては反発。新興国通貨も持ち直す動きをみせた。BRL が前日比+1.7%上昇。ZAR は下落した。週初 11 日、アジア時間の新興国通貨は小幅安。中国の上海で感染力が強い COVID-19 派生型が確認され、ロックダウン再開が懸念された。CNY や INR が値を下げた。欧米時間の新興国通貨は全面安。ロシアが主要パイプラインの定期検査を理由にドイツ向け天然ガス供給を停止。供給停止の長期化も懸念され、EUR は直近安値を更新した。欧米株は下落、商品市況も軟調となる中、BRL は前日比▲2.3%下落、MXN や ZAR、東欧通貨も前日比▲1%超値を下げた。12 日、アジア時間の新興国通貨は、前日からのリスクオフが残る中で続落。KRW や PHP の下げが目立った。欧米時間の新興国通貨はまちまち。米金利低下と米株安に商品市況の軟調も重なる中で、前日比▲1.1%値を下げた BRL をはじめ南米通貨の下落が目立った。一方、ZAR や TRY は反発した。13 日、アジア時間の新興国通貨は小幅反発。朝方はやや高く始まるも、米 6 月消費者物価指数 (CPI) の発表を控えて、様子見ムードから上昇幅を徐々に縮小した。新興国通貨は欧州時間に底堅さをみせるも、米国時間に上昇幅を縮小する展開。米 6 月 CPI の上振れに市場は一時乱高下、ドルはその後持ち直しに転じた。BRL や ZAR、MXN が上昇。TRY や東欧通貨の一角は値を下げた。14 日、新興国通貨は大半が下落。FRB による大幅利上げへの警戒感が広がった。アジア時間では、THB や CNY が下落。PHP は中銀の緊急利上げを支えにしっかり。欧州時間も上値の重い展開となったが、米国時間には下落幅をやや縮小した。ウォラーFRB 理事の「7 月は 75bp 利上げが基本シナリオ」との発言が手掛かりとなった。ZAR は前日比▲1.5%下落、BRL も値を下げた。

アジア: 9 日発表の中国 6 月生産者物価指数 (PPI) は前年比+6.1%と前月 (同+6.4%) から鈍化。他方、6 月 CPI は同+2.5%と前月 (同+2.1%) から加速した。12 日発表のインド 6 月 CPI は前年比+7.0%と前月からほぼ横ばいとなった。13 日発表の中国 6 月貿易収支は+979.4 億ドルと市場予想 (+768.0 億ドル) を上回った。輸出上振れに輸入の下振れが重なった。韓国銀行 (BOK) は 13 日、政策金利を 50bp 引き上げ 2.25%とした。50bp の利上げは現行の枠組みで初。インフレの高進と期待上振れに警戒を示した。シンガポール金融通貨庁 (MAS) は 14 日、臨時会合を開催。追加金融引き締め (政策バンドの中央値を実勢水準にシフト) を決定した。フィリピン中央銀行 (BSP) は 14 日、臨時会合を開催。インフレ高進を念頭に政策金利を 75bp 引き上げ 3.25%にすると決定とした。

中東欧・アフリカ: 8 日発表のロシア 6 月 CPI は前年比+15.90%と、4 月 (同+17.83%) をピークに 2 か月連続で減速。市場予想 (同+16.00%) も下回った。

市場営業部

マーケット・エコノミスト

堀内 隆文

03-3242-7065

takafumi.horiuchi@mizuho-bk.co.jp

マーケット・エコノミスト

堀 堯大

03-3242-7065

takahiro.hori@mizuho-bk.co.jp

大島 由喜

03-3242-7065

yuki.ooshima@mizuho-bk.co.jp

市場概観(新興国)

中国の改善もあり持ち直す PMI

市場営業部
マーケット・エコノミスト
堀内 隆文
03-3242-7065
takafumi.horiuchi@mizuho-bk.co.jp

S&P Global 社が集計するグローバル購買担当者指数 (PMI) によれば、6 月製造業 PMI は 52.2 と前月 (52.3) からほぼ横ばい。ただし地域別には、新興国で生産 (54.7) と新規受注 (51.2) のいずれもが前月から大幅に上昇、拡大/縮小の目安となる 50 を 4 か月ぶりに回復した (図表 1)。一方、先進国は生産 (49.9) と新規受注 (48.4) がいずれも 2 年ぶりに 50 を下回った (図表 2)。また、6 月非製造業 PMI は 53.9 と前月 (51.9) から上昇。新興国が 55.6 と 2010 年 10 月以来の水準まで急上昇、先進国は 53.1 と前月からやや低下した。

まず、6 月の集計結果は、特に先進国の PMI について、先行きの景気減速懸念がうかがえるものとなった。米国をはじめ主要国では利上げペースが加速しつつある。金融当局はインフレ抑制を何としても成し遂げる構えであり、景気がこの次にされるとの懸念は高まっている。需要動向を示唆する新規受注の 50 割れのみならず、50 を上回っているとはいえ、受注残や原材料在庫といった指数の急低下は象徴的だ (図表 3、4)。また、価格転嫁の動きが再び停滞している兆しが、製造業と非製造業のいずれにもうかがえる (図表 5、6)。そして、12 か月後の生産/活動見通しも大きく低下した (図表 7、8)。先進国が景気減速となれば新興国景気も無縁ではいられない。先行きの新興国の PMI の下押し要因となりうる点には注意したい。

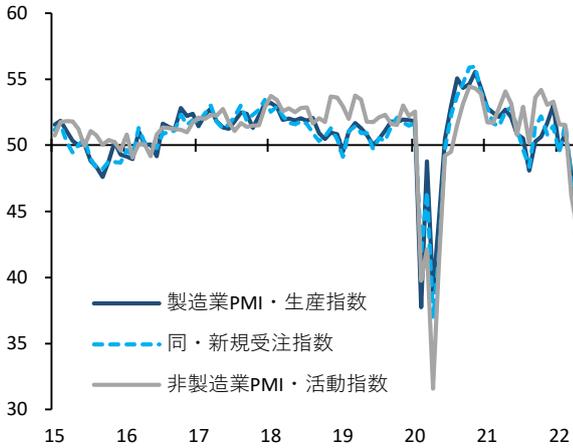
次に、足許の新興国の PMI 急上昇については、上海市におけるロックダウン緩和や追加景気対策が打ち出された中国の影響が大きい。6 月製造業 PMI では、生産 (43.2→56.4) と新規受注 (47.5→51.2) が急上昇、新規輸出受注 (44.7→52.3) や入荷遅延指数 (43.3→50.1) も大きく改善した。非製造業 PMI でも、ビジネス活動 (41.4→54.5) や新規受注 (44.8→52.4) の急上昇が目立った。当局がゼロコロナ政策の堅持を明確にする中で先行き不透明感は燦るも、景気対策の効果への期待感もあろう。当面、企業マインドを支えそうだ。

その他の新興国については、行動規制緩和で経済正常化が進む国が引き続き堅調で、非製造業 PMI が製造業 PMI を上回るケースが目立つ。ブラジルは、製造業 PMI (54.1) が前月比ほぼ横ばい、非製造業 PMI (60.8) は再上昇した。インドは製造業 PMI (53.9) が前月比やや低下も、非製造業 PMI (59.2) は続伸。ロシアでも非製造業 PMI が 4 か月ぶりに 50 を回復した (図表 20)。また、全産業ベースの PMI となるが、シンガポールや香港、南アフリカでも堅調さがうかがえる。このほか、フィリピンやベトナムは製造業 PMI の生産および新規受注が高水準を維持。メキシコでは生産と新規受注が 2020 年 2 月以来の 50 を回復した。

一方、高インフレと通貨安に悩まされるトルコでは製造業 PMI が引き続き低迷。生産と新規受注はそれぞれ 2022 年 5 月以来の水準まで低下した。このほか、台湾では生産と新規受注が 50 を下回る状況が続いているほか、韓国でも生産指数が 50 を下回って下落が続いている。

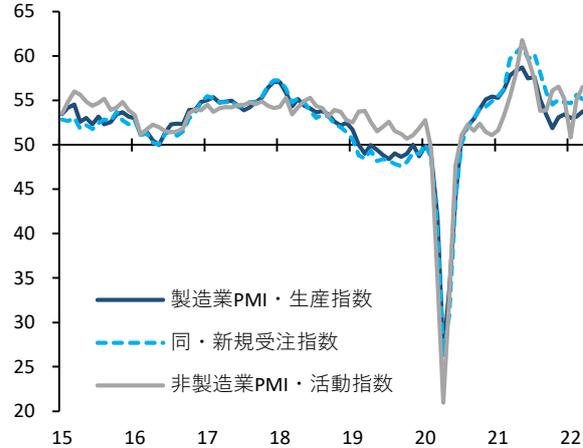
(注) 各国・地域別の PMI のグラフについては、7 月 11 日付の通貨ニュースでご確認いただけます。

図表 1: 新興国



出所: S&P Global、みずほ銀行

図表 2: 先進国



出所: S&P Global、みずほ銀行

図表 3: 製造業 PMI・受注残指数



出所: S&P Global、みずほ銀行

図表 4: 非製造業 PMI・原材料在庫指数



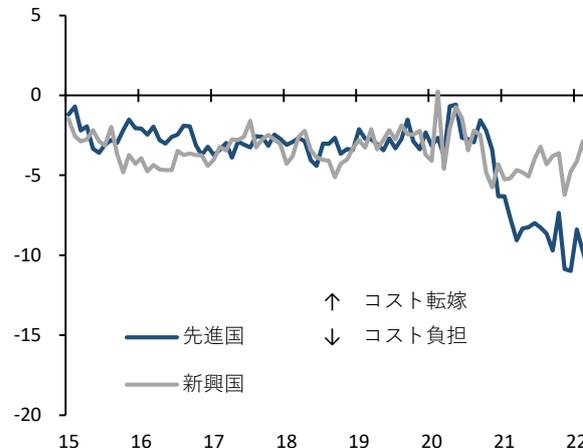
出所: S&P Global、みずほ銀行

図表 5: 製造業 PMI にみる価格転嫁動向



注: 出荷価格指数から仕入れ価格指数を差し引いた値をプロット
出所: S&P Global、みずほ銀行

図表 6: 非製造業 PMI にみる価格転嫁動向



注: 出荷価格指数から仕入れ価格指数を差し引いた値をプロット
出所: S&P Global、みずほ銀行

図表 7: 製造業 PMI・生産見通し指数



出所: S&P Global、みずほ銀行

図表 8: 非製造業 PMI・活動見通し指数



出所: S&P Global、みずほ銀行

市場概観(韓国)

利上げ幅を拡大した BOK

市場営業部
マーケット・エコノミスト
堀内 隆文
03-3242-7065
takafumi.horiuchi@mizuho-bk.co.jp

韓国銀行(BOK)は13日、金融通貨委員会を開催し、政策金利(7日物レポ金利)を50bp引き上げ2.25%とすることを全会一致で決定した(図表1)。利上げ幅は従来の25bpから拡大、2021年8月以降の利上げ幅は175bpに達した。声明文の冒頭で、BOKはインフレ高進とその拡がり、インフレ期待の急速な上昇に言及。後段では、それらに歯止めをかけるべく利上げ幅を50bpとする判断に至ったことを以下の通り説明している。

the Board sees it as important at this time to curb the spread of inflation expectations through a 50-basis-point rate hike to prevent acceleration of inflation.

実際、インフレ率は足許でなお上昇中だ。6月の消費者物価指数(CPI)は前年比+6.0%と前月(同+5.4%)から大きく加速、1998年11月以来の水準に達した(図表1)。6月のコアCPIも同+4.4%と前月(同+4.1%)から加速。こちらは2008年12月の直近ピーク(同+5.6%)には及ばないものの、物価上昇の拡がりを示唆することには変わりはない。こうした伸びはBOKの従来見通しを上回るものだ。BOKは声明文で、CPIはしばらく前年比+6%を上回り、2022年通期では5月時点の見通し(同+4.5%)を著しく上回ると述べた(図表2)。コアCPIに関しても、しばらく同+4%かそれ以上の伸びを示すと予想している。

先々のインフレ率見通しを上振れさせているのはBOKだけではない。6月の消費者サーベイによると、12か月後に予想するインフレ率(平均)が前年比+3.9%と前月(同+3.3%)から大きく加速。単月の変化幅としては、統計で遡れる2008年以降で最大、水準としては2012年4月以来の結果となった(図表3)。ただ、BOKとしては、足許での物価上昇の長期化が先々の物価見通しを上振れさせているリスクとして警戒せざるを得ない。また、このサーベイの集計期間(6月13~20日)の後に、電力とガスの料金が7月から値上げされることが発表されている。さらなる見通しの上振れも予想されるだけになおさらだろう。

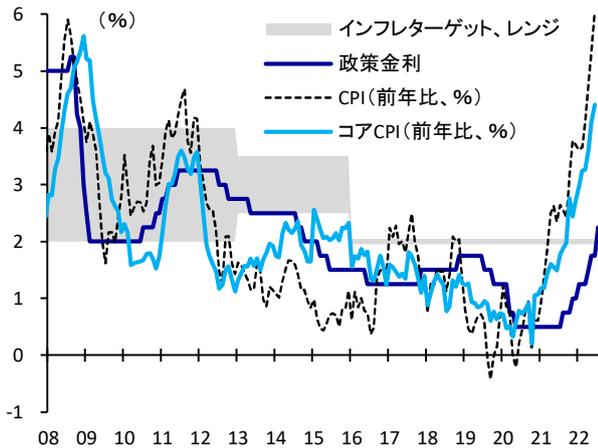
かかる状況下、BOKはインフレ対応を優先し、追加利上げを継続する構えだ。李総裁は会見で、今後は25bpずつの利上げが望ましいとの認識を示し、2022年末には政策金利が2.75~3.00%まで引き上げられるとの市場の織り込みも合理的と述べた。また、あと1、2回の利上げは引き締めとはいえないかもしれないとした。ちなみに、年内の政策会合は残り3回、それぞれ25bpずつの利上げが行われれば、政策金利は3.00%となる。

もともと、特に次回8月会合で、50bpの利上げが行われる可能性はそれほど低くはないように思われる。理由はKRW安だ。李総裁は会見で、KRW安がもたらすインフレ圧力を政策上考慮していると述べている。米国のイエレン財務長官の訪韓(7月19日予定)に際して、韓国側ではKRW安に楔を打つべく、通貨スワップ協定への期待が膨らむが、これは危機感の裏返しでもあろう。

なお、KRWは昨年以降、下落が続いており、足許では米金融危機の影響が残る2009年以来の水準まで下げている(図表4)。当局も相場安定に努めているようだが、じり安が止まらない。この間、輸入価格を通じてインフレ圧力をもたらしてきたこと

は事実だろう。金利面では、米金利の上昇で対米金利差が縮小。仮に7月FOMCで100bpの利上げが行われれば、金利差はついに逆転する(米国の方が高くなる)。実需面では、資源高を背景に貿易赤字の計上が続くようになってきた。これまで輸出をけん引してきた半導体関連にも先行きの勢い鈍化が指摘される。株式市場からの海外資金流出も目立つ。こうした中で、能動的に通貨安(≒インフレ圧力)を抑制しようとするれば、相応の追加利上げが必要になるのではないかと。

図表 1: 政策金利とインフレ率



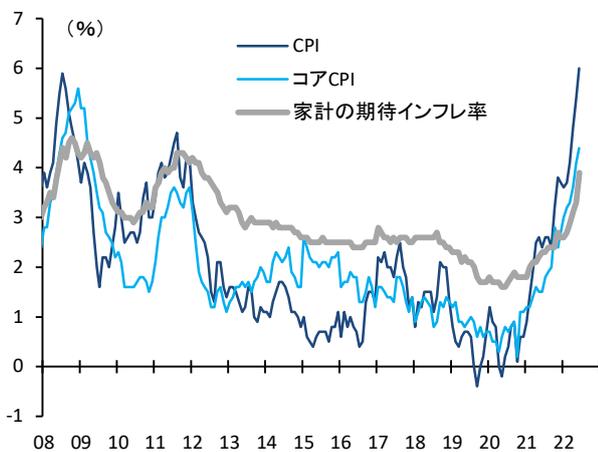
出所: BOK、CEIC、みずほ銀行

図表 2: 図表 4: BOK の経済見通し(2022年5月時点)

	2021年 (前年比)	2022年		2023年	
		通年	上半期 下半期	通年	通年
実質GDP成長率	4.0%	2.8%	2.5%	2.7%	2.4%
民間最終消費支出	3.6%	3.9%	3.5%	3.7%	2.7%
設備投資	8.3%	-5.4%	2.6%	-1.5%	2.1%
知的財産投資	4.0%	4.7%	3.3%	4.0%	3.7%
建設投資	-1.5%	-3.4%	2.2%	-0.5%	2.6%
輸出(財)	10.0%	5.8%	1.1%	3.3%	2.1%
輸入(財)	11.9%	5.3%	1.5%	3.4%	2.4%
消費者物価指数(CPI)	2.5%	4.4%	4.6%	4.5%	2.9%

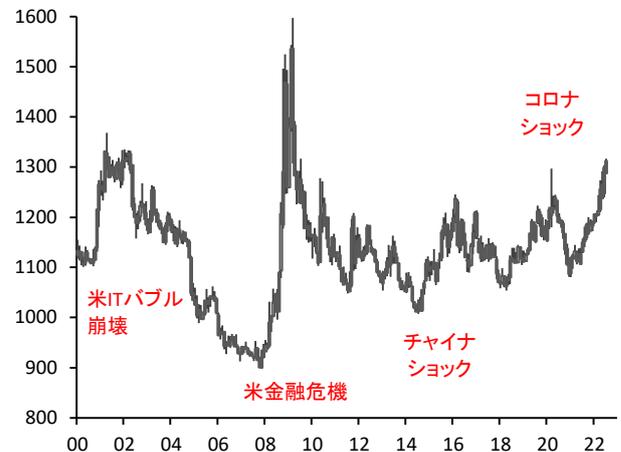
注: 下線は2022年2月時点の見通しから下方修正された値
出所: BOK、みずほ銀行

図表 3: 物価と家計の期待インフレ率(12か月先)



出所: BOK、ブルームバーグ、みずほ銀行

図表 4: USDKRW のスポットレート(月足)



出所: ブルームバーグ、みずほ銀行

市場概観(フィリピン)

BSP、インフレ高進と PHP 安を受け緊急利上げを発表

市場営業部
マーケット・エコノミスト
堀 堯大
03-3242-7065
takahiro.hori@mizuho-bk.co.jp

フィリピン中央銀行(BSP)は14日、政策金利の翌日物リバースレポレートに従来の2.50%から3.25%へ引き上げた(図表1)。前回6月会合では50bpsの利上げを実施したが、それに次ぐ金融引き締め対応となり、利上げ幅も75bpsに拡大した。同時に上限金利の翌日物貸出ファシリティ(OLF)レートおよび下限金利の翌日物預金ファシリティ(ODF)レートも同じ幅だけ引き上げてそれぞれ3.75%と2.75%となっている。

今回決定は予定されていた8月の金融政策会合での対応を前倒したものと思われる。声明文では、インフレ圧力が強まっていることを確認した上での対応としており、内需を中心に回復の兆候が見えているフィリピン経済は今回の金融引き締めにも耐え得ると言及された。

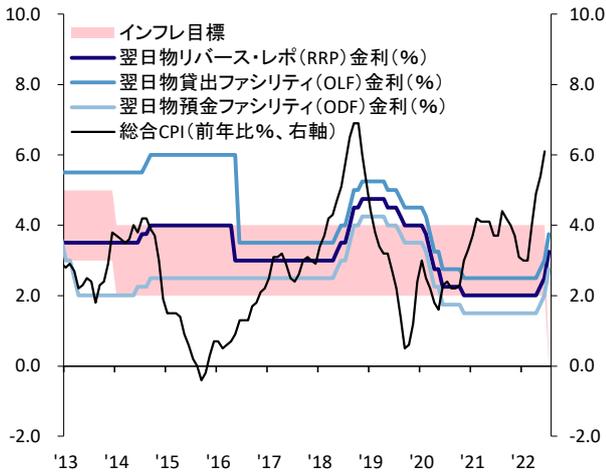
5日に公表された6月CPIの結果は前年比+6.1%と5月の同+5.4%から更に加速した(図表2)。内訳をみるとCPIの構成割合の約4割を占める食品価格やエネルギー価格との関係性の大きい光熱費や輸送費の上昇も継続している。こうした状況下、7月に就任したメダラ新総裁は上昇が続くインフレとインフレ期待には金融政策の引き締めが求められると判断したと述べ、8月に濃厚となっていた追加利上げを前倒して実施したのであろう。加えて、物価安定を目指す上で今後更に必要な行動をとるとも発言し、追加引き締めにも積極的な姿勢を見せた。

また、6月会合での利上げ実施以降もPHPは対ドルで軟調な推移となっており、7月に入り史上最安圏を推移している(図表3)。世界景気減速懸念や資源価格の高止まりといったPHPにとって逆風となる相場環境は変わらず、PHP安をけん制したい思惑もBSPの胸中にあつたものと推測する。

13日には米国で引き続き高いインフレ率を記録し、市場では7月FOMCにて利上げ幅をこれまでの75bpsから100bpsへと拡大させるといった予想がにわかに強まっている。こうした点が更なるドル高を招いており、今後FRB関係者の発言を巡り相場が一段と荒れることも予想される。このほか、ユーロ圏ではロシアのドイツ向けの天然ガス供給停止に関する懸念が燻り、日に日にインフレの進行と域内経済減速の可能性が高まっている。ユーロは対ドルで一時1.00を割り込むなど、一段とドル高が進みやすい地合いとなっている。現にドルの強さを示すドルインデックスも約20年ぶりの高水準をつけており、この点もPHPのみならず新興国通貨全体の下落要因となっている(図表4)。

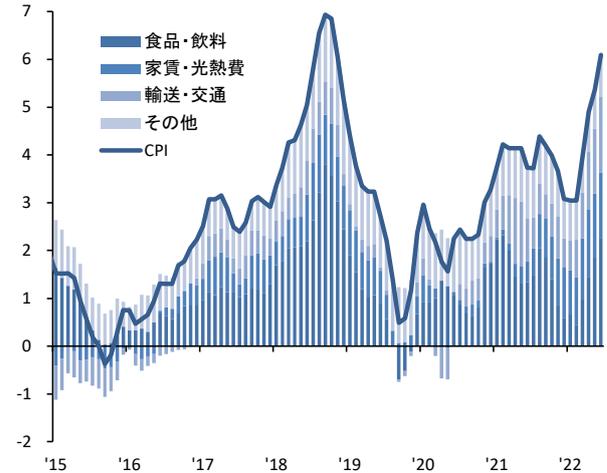
かかる中、本欄ではPHPの巻き戻しは景気の本格回復が見込まれる7~9月期の後半以降と予想するが、リスクオフの動きに伴う新興国通貨売りの勢いは根強い。PHPにおいてもその間、断続的に史上最安値を更新する相場動向となることも想定されよう。

図表 1: 政策金利水準とインフレ目標



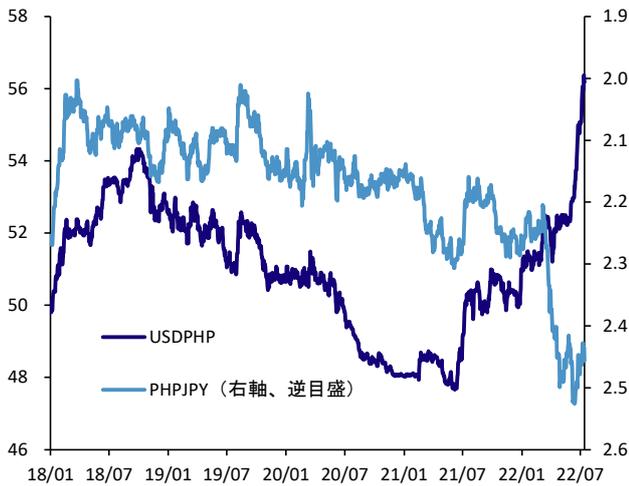
出所: フィリピン中央銀行、フィリピン国家統計局、Bloomberg、みずほ銀行

図表 2: 消費者物価上昇率の推移(前年比%、%ポイント)



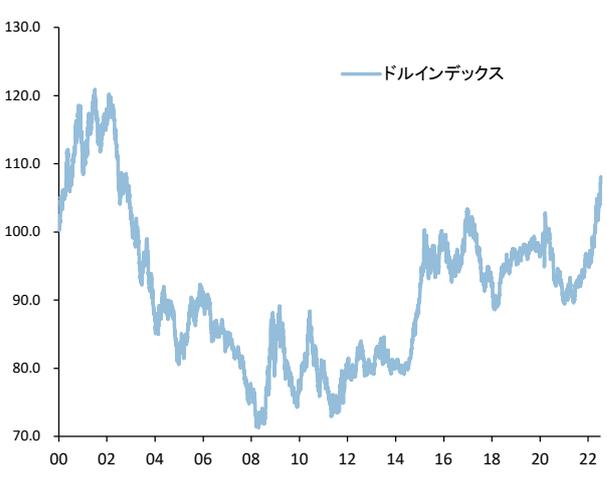
出所: CEIC、みずほ銀行

図表 3: PHP の動向



出所: CEIC、みずほ銀行

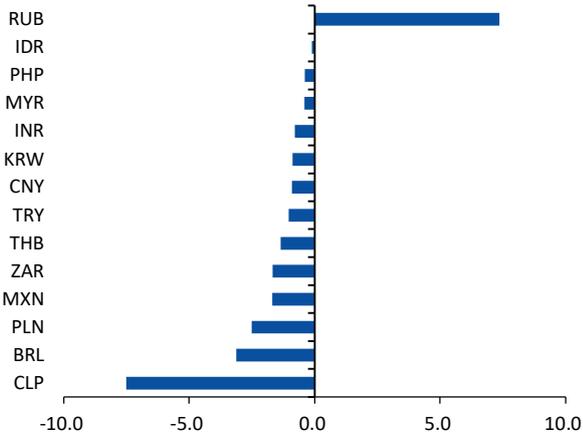
図表 4: ドルインデックスの推移



出所: Bloomberg、みずほ銀行

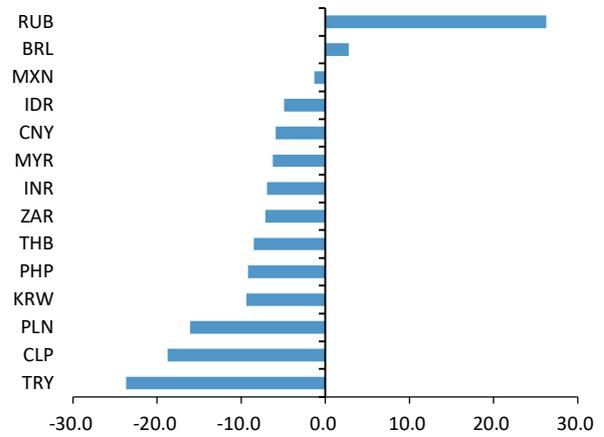
資産別騰落率

為替週間騰落率(対ドル、%)



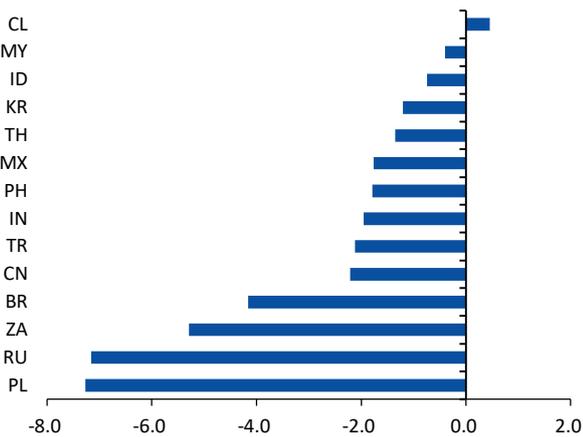
出所: ブルームバーグ、みずほ銀行

為替年初来騰落率(対ドル、%)



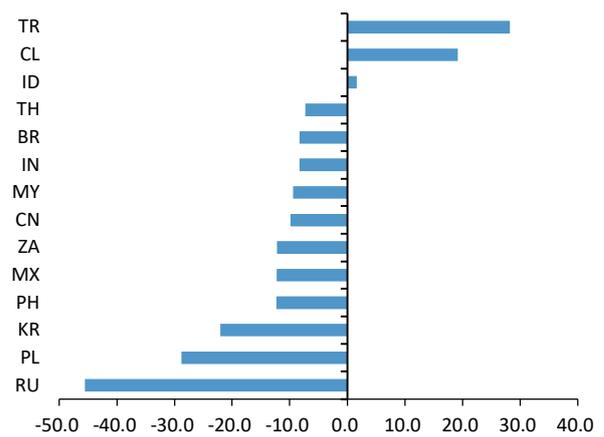
出所: ブルームバーグ、みずほ銀行

株価週間騰落率(%)



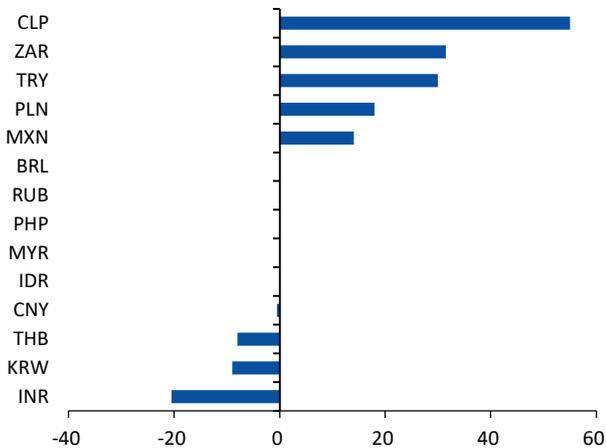
出所: ブルームバーグ、みずほ銀行

株価年初来騰落率(%)



出所: ブルームバーグ、みずほ銀行

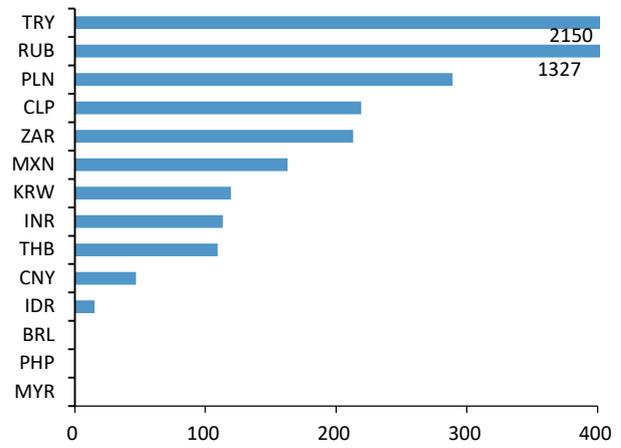
5年物スワップレート週間変化(bp)



注: データの都合によりブラジルの値は未掲載。

出所: ブルームバーグ、みずほ銀行

5年物スワップレート年初来変化(bp)

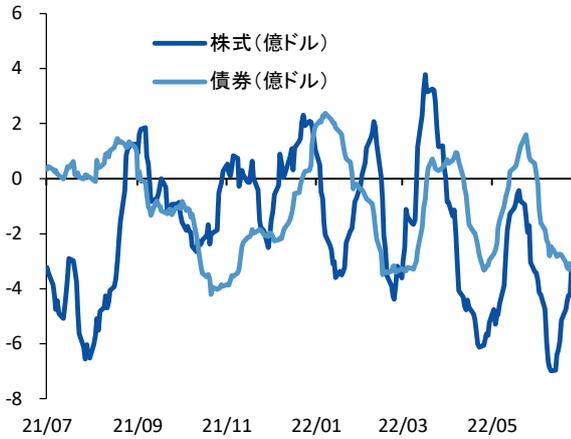


注: データの都合によりブラジルの値は未掲載。

出所: ブルームバーグ、みずほ銀行

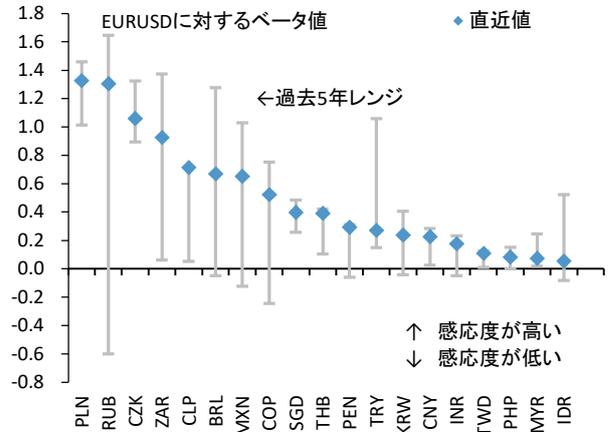
チャート集

主要新興国への証券投資(4週間移動平均)



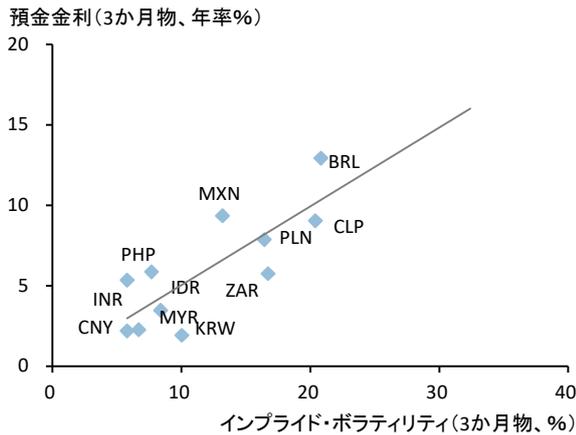
出所:ブルームバーグ、みずほ銀行

EM通貨(対ドル)のEURUSDに対する感応度(過去12か月)



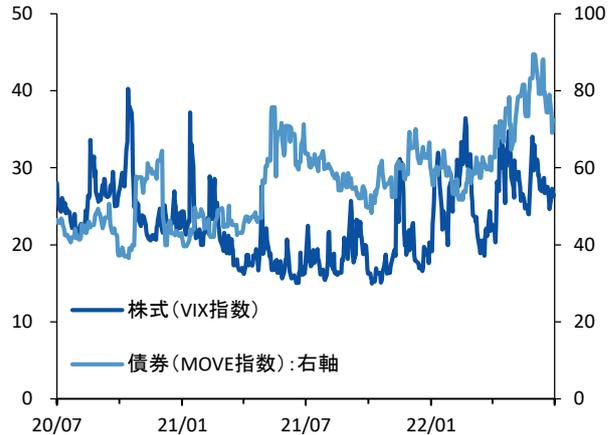
出所:ブルームバーグ、みずほ銀行

新興国の預金金利と為替ボラティリティ



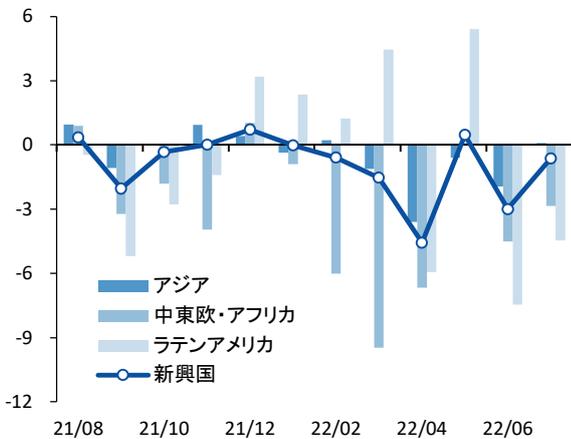
出所:ブルームバーグ、みずほ銀行

株式と債券のボラティリティ(VIX指数、MOVE指数)



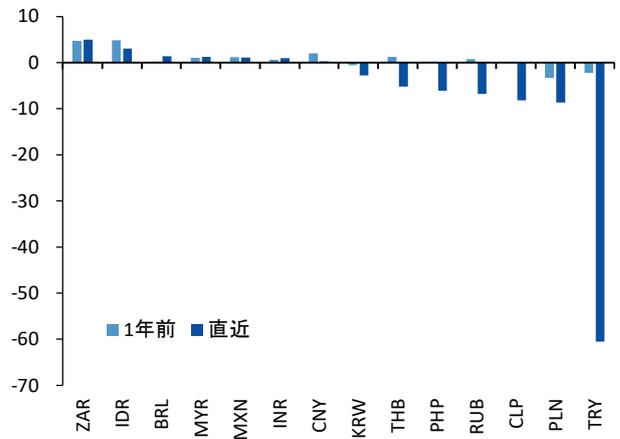
出所:ブルームバーグ、みずほ銀行

新興国現地通貨建て国債月次パフォーマンス(%)



出所:ブルームバーグ、みずほ銀行

実質金利(10年物国債金利 - 消費者物価上昇率、%)



出所:ブルームバーグ、みずほ銀行

新興国経済カレンダー

日付	国	経済指標・イベント	市場予想	発表値	前回値	修正値
エマージングアジア						
7月11-15日	中国	新規人民元建て融資(CNY)	2400.0b	5170.0b	1890.0b	1883.6b
12日 (火)	フィリピン	貿易収支	-\$4959m	-\$5679m	-\$4773m	--
12日 (火)	インド	鉱工業生産(前年比)	20.7%	19.6%	7.1%	--
12日 (火)	インド	CPI(前年比)	7.1%	7.0%	7.0%	--
13日 (水)	韓国	韓国銀行7日間レポレート	2.25%	2.25%	1.75%	--
13日 (水)	中国	貿易収支	\$76.80b	\$97.9b	\$78.76b	--
14日 (木)	シンガポール	GDP(前年比)	5.4%	4.8%	3.7%	--
14日 (木)	インド	卸売物価(前年比)	15.6%	15.2%	15.9%	--
14-15日	インド	輸出(前年比)	--	23.5%	20.6%	--
14-15日	インド	輸入(前年比)	--	57.6%	62.8%	--
14-17日	フィリピン	Overseas Cash Remittances YoY	4.1%	--	3.9%	--
15日 (金)	中国	鉱工業生産(前年比)	4.0%	--	0.7%	--
15日 (金)	中国	GDP(前年比)	1.2%	--	4.8%	--
15日 (金)	中国	小売売上高(前年比)	0.3%	--	-6.7%	--
15日 (金)	中国	固定資産投資(除農村部/年初来/前年比)	6.0%	--	6.2%	--
15日 (金)	インドネシア	貿易収支	\$3556m	--	\$2900m	--
18日 (月)	シンガポール	非石油地場輸出(前年比)	--	--	12.4%	--
18日 (月)	シンガポール	電子機器輸出(前年比)	--	--	12.9%	--
18-23日	フィリピン	総合国際収支	--	--	-\$1610m	--
20日 (水)	マレーシア	輸出(前年比)	--	--	30.5%	--
20日 (水)	台湾	輸出受注(前年比)	--	--	6.0%	--
21日 (木)	インドネシア	インドネシア銀行7日物リハースレポ	--	--	3.50%	--
22日 (金)	韓国	PPI 前年比	--	--	9.7%	--
22日 (金)	タイ	貿易収支(通関ベース)	--	--	-\$1870m	--
22日 (金)	マレーシア	CPI(前年比)	--	--	2.8%	--
22日 (金)	フィリピン	財政収支(フィリピンペソ)	--	--	-146.8b	--
中東欧・アフリカ						
7月11日 (月)	ロシア	経常収支	--	70100m	68384m	--
12日 (火)	南ア	製造業生産(季調前/前年比)	-0.8%	-2.3%	-7.8%	--
13日 (水)	南ア	小売売上高(実質値、前年比)	1.3%	0.1%	3.4%	--
14日 (木)	トルコ	鉱工業生産(前年比)	8.0%	9.1%	10.8%	--
14-22日	ロシア	PPI 前年比	--	--	19.3%	--
20日 (水)	南ア	CPI(前年比)	--	--	6.5%	--
20日 (水)	南ア	CPIコア(前年比)	--	--	4.1%	--
21日 (木)	トルコ	1週間レポレート	--	--	14.0%	--
21日 (木)	南ア	SARB政策金利発表	--	--	4.75%	--
22日 (金)	ロシア	主要金利	--	--	9.50%	--
ラテンアメリカ						
7月12日 (火)	メキシコ	鉱工業生産(季調前/前年比)	3.2%	3.3%	2.7%	--
13日 (水)	ブラジル	小売売上高(前年比)	2.5%	-0.7%	4.5%	--
14日 (木)	ブラジル	経済活動(前年比)	--	3.7%	2.2%	--
18-23日	ブラジル	純債務対GDP比	58.3%	--	57.9%	--
18-23日	ブラジル	融資残高	4767b	--	4711b	--
18-23日	ブラジル	経常収支	\$300m	--	-\$2414m	--
18-23日	ブラジル	海外直接投資	\$6076m	--	\$11843m	--
21日 (木)	メキシコ	小売売上高(前年比)	--	--	4.6%	--

注:2022年7月8日現在、信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性を全面的に保証するものではありません。
出所:ブルームバーグ、みずほ銀行

為替相場見通し

	2022年 1～6月(実績)	SPOT	2022年 9月	12月	2023年 3月	6月	9月
対ドル							
エマージングアジア							
中国人民元 (CNY)	6.3065 ~ 6.8125	6.7561	6.70	6.70	6.73	6.75	6.75
香港ドル (HKD)	7.7825 ~ 7.8500	7.8499	7.85	7.85	7.84	7.83	7.82
インドルピー (INR)	73.779 ~ 78.989	79.879	80.5	78.8	76.2	75.3	74.4
インドネシアルピア (IDR)	14250 ~ 14917	14993	15200	15000	14900	14650	14450
韓国ウォン (KRW)	1185.81 ~ 1303.65	1312.05	1320	1330	1330	1340	1330
マレーシアリング (MYR)	4.1645 ~ 4.4253	4.4443	4.47	4.41	4.35	4.29	4.26
フィリピンペソ (PHP)	50.753 ~ 55.164	56.155	56.3	55.7	55.0	54.3	53.7
シンガポールドル (SGD)	1.3408 ~ 1.3986	1.4040	1.41	1.39	1.37	1.35	1.35
台湾ドル (TWD)	27.496 ~ 29.887	29.885	29.8	30.0	30.0	29.8	29.5
タイバーツ (THB)	32.09 ~ 35.57	36.52	36.0	35.2	34.4	34.2	33.8
ベトナムドン (VND)	22627 ~ 23283	23400	23440	23100	23000	22800	22750
中東欧・アフリカ							
ロシアルーブル (RUB)	51.1250 ~ 177.2606	60.4325	58.0	62.0	65.0	67.0	70.0
南アフリカランド (ZAR)	14.4025 ~ 16.4736	17.1733	16.0	15.0	14.0	14.5	15.5
トルコリラ (TRY)	12.8029 ~ 17.4446	17.4639	18.0	18.5	19.0	19.5	18.0
ラテンアメリカ							
ブラジルリアル (BRL)	4.5853 ~ 5.7239	5.4245	5.40	5.30	5.20	5.05	4.95
メキシコペソ (MXN)	19.4136 ~ 21.4676	20.8187	20.4	20.5	20.5	20.4	20.2
対円							
エマージングアジア							
中国人民元 (CNY)	17.867 ~ 20.454	20.588	20.45	20.90	20.52	20.15	20.00
香港ドル (HKD)	14.576 ~ 17.454	17.709	17.46	17.85	17.60	17.37	17.26
インドルピー (INR)	1.491 ~ 1.747	1.740	1.70	1.78	1.81	1.81	1.81
インドネシアルピア (100IDR)	0.792 ~ 0.928	0.924	0.901	0.933	0.926	0.928	0.934
韓国ウォン (100KRW)	9.322 ~ 10.729	10.589	10.38	10.53	10.38	10.15	10.15
マレーシアリング (MYR)	27.109 ~ 31.067	31.295	30.65	31.75	31.72	31.70	31.69
フィリピンペソ (PHP)	2.202 ~ 2.539	2.478	2.43	2.51	2.51	2.50	2.51
シンガポールドル (SGD)	84.19 ~ 98.65	99.01	97.16	100.72	100.73	100.74	100.00
台湾ドル (TWD)	4.060 ~ 4.607	4.647	4.60	4.67	4.60	4.57	4.58
タイバーツ (THB)	3.416 ~ 3.899	3.799	3.81	3.98	4.01	3.98	3.99
ベトナムドン (10000VND)	0.5005 ~ 0.5886	0.5941	0.58	0.61	0.60	0.60	0.59
中東欧・アフリカ							
ロシアルーブル (RUB)	0.680 ~ 2.667	2.309	2.36	2.26	2.12	2.03	1.93
南アフリカランド (ZAR)	7.190 ~ 8.813	8.095	8.56	9.33	9.86	9.38	8.71
トルコリラ (TRY)	7.584 ~ 9.008	7.970	7.61	7.57	7.26	6.97	7.50
ラテンアメリカ							
ブラジルリアル (BRL)	20.216 ~ 27.844	25.623	25.37	26.42	26.54	26.93	27.27
メキシコペソ (MXN)	5.377 ~ 6.868	6.677	6.72	6.83	6.73	6.67	6.68

注:1. 実績の欄は2022年6月30日まで。SPOTは7月15日の7時55分頃。

2. 実績値はブルームバーグの値。

3. 予想の欄は四半期末の予想。

出所:ブルームバーグ、みずほ銀行

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。なお、当行は本情報を無償でのみ提供しております。当行からの無償の情報提供を望まれない場合、配信停止を希望する旨をお申し出ください。